

用語集

番号	用語	説明
1	生活習慣病	「食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒等の生活習慣が、その発症・進行に關与する疾患群」と定義されており、脳卒中、心臓病、糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満が含まれる。
2	脳卒中	脳血管障害のうち、虚血性のものと出血性のものを合わせて脳卒中という。 血液が脳の先までいかない状態や脳血管の一部が壊死する障害により、手足の麻痺やしびれ、意識障害などの症状が出る。
3	地域包括支援センター	保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャーなど保健福祉・介護の専門職員が配置され、介護予防ケアプランの作成や、高齢者の虐待防止・権利擁護、介護に関する相談や認知症の方を支援する事業など、地域における主に高齢者のための総合的な支援を行う中核拠点。
4	急性期	急性疾患や慢性疾患の急性増悪で、病状が安定しておらず、高度の医療設備、多くのスタッフによる医療行為や全身管理が必要な時期をいう。
5	回復期リハビリテーション病床	回復期リハビリテーション病棟の病床で、寝たきりの防止と在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に行う病床であり、リハビリテーション科を標榜していることや専従の医師、理学療法士、作業療法士を配置している等の基準がある。
6	急性増悪	落ち着いていた病状が急激に悪化すること。
7	回復期	主に急性疾患において、発症間もない病状の不安定な時期を過ぎて安定している、あるいは緩やかに快方に向かっている時期をいう。
8	病病連携	病院間で連携して治療を行うこと。急性期病院、療養型病院などの各病院の特性と病状に応じた医療の提供ができるように病院間で連携をとること。
9	病診連携	かかりつけの診療所の医師と病院の医師が連携して診療を行うこと。精密検査や入院が必要な場合は病院へ紹介が行われ、入院治療がなくなった場合、病院から診療所へ紹介することにより、双方の医師が連携しながら治療すること。
10	高齢者人口	65歳以上の人口。
11	後期高齢者	75歳以上の人。
12	超高齢社会	高齢化率（65歳以上の人口が総人口に占める割合）が21%超の社会をいう。高齢化率が7%超を高齢化社会、14%超を高齢社会という。
13	介護療養病床	療養病床のうち、介護保険の適用を受ける病床。介護を中心に、医学的管理の下で長期にわたる療養が必要な者が対象となる。
14	医療療養病床	療養病床のうち、医療保険の適用を受ける病床。医療を中心に、医学的管理の下で長期にわたる療養が必要な者が対象となる。

番号	用語	説明
15	地域包括ケアシステム	高齢者が地域で自立した生活を営めるよう、①介護、②医療、③予防、④住まい、⑤生活支援が一体的に切れ目なく提供される体制をいう。地域包括ケアシステムを構築するための圏域として、総合福祉事務所の管轄に合わせて、「練馬」、「石神井」、「大泉」、「光が丘」の4つの区域を日常生活圏域としている。
16	認知症	後天的な原因によって脳に障害が起きて知的能力が低下し、日常生活に支障が出ている状態。アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症などがある。早期に治療することにより進行を遅らせたり、改善したりするものもある。
17	アウトリーチ	医療、相談等の支援を必要としている人が、それらを提供する機関等に出向けない場合や、生活の場などで直接支援等を受けることが必要な場合に、提供機関から出向いて必要な支援をすること。
18	臨床研修	診療に従事しようとする医師が、免許を受けた後に、2年以上大学附属病院または厚生労働大臣の指定する病院（臨床研修指定病院）において受ける臨床での研修のこと。
19	7:1 看護体制	看護配置基準の一つで、1日24時間を平均して患者7人に対して看護師1人配置されていることを意味する。
20	病床利用率	病院のベッドの利用の程度を示す指標であり、次の式で算出される。病床利用率(%)=入院患者延数÷許可病床延数×100
21	出生率	その年の人口千人当たりの出生数の割合。
22	死亡率	その年の人口千人当たりの死亡数の割合。
23	高齢化率	65歳以上の人口の全人口に占める割合。
24	悪性新生物	悪性腫瘍、がんのこと。
25	心疾患	心臓の疾患の総称、心臓病とも言う。
26	脳血管疾患	脳血管疾患（脳血管障害）とは脳動脈に異常が起きることが原因でおこる病気で次に分類される。 虚血性：脳血栓・脳塞栓（これらを合わせて脳梗塞という） 出血性：脳出血・くも膜下出血 その他：高血圧性脳症・脳動脈硬化症・モヤモヤ病など
27	区西北部二次保健医療圏	東京都保健医療計画に定める二次保健医療圏で、豊島区、北区、板橋区、練馬区で構成される。
28	一般診療所	医師が医業を行う場所であって、患者の入院施設を有しないもの（無床診療所）または患者19人以下の入院施設を有するもの（有床診療所）をいう。

番号	用語	説明
29	平均在院日数	<p>病床の区分ごとに、患者の入院期間を年間平均したもの。 (算定式は以下のとおり。)</p> <p>① 療養病床以外の病床平均在院日数＝年間在院患者延数÷（年間新入院患者数＋年間退院患者数）×1/2</p> <p>② 療養病床平均在院日数＝年間在院患者延数÷（年間新入院患者数＋年間同一医療機関内の他の病床から移された患者数＋年間同一医療機関内の他の病床へ移された患者数＋年間退院患者数）×1/2</p>
30	救急告示医療機関	「救急病院等を定める省令」に基づき、事故や急病等による傷病者を救急隊が緊急に搬送する医療機関として、医療機関からの協力の申出を受けて、都道府県知事が認定、告示した病院、診療所。
31	NICU	Neonatal Intensive Care Unit の略。新生児特定集中治療室。超低出生体重児、低出生体重児や疾患のある新生児に対して高度な専門医療を24時間集中的に管理、治療する室をいう。
32	助産所	助産師が、分娩の手助けや妊産婦、新生児の保健指導を（病院または診療所において行うものを除く。）を行う場所をいう。診療所とは異なり、医療行為を行う事は出来ない。
33	準夜間	ここでは、午後5時頃から午後10時頃までの時間帯をいう。
34	自立支援医療費制度(精神通院医療)	精神疾患のために継続して通院する必要がある患者に対して医療費を助成するもの。
35	在宅療養支援診療所	地域における患者の在宅療養について中心的な役割を担う診療所で、24時間体制で往診や訪問看護を実施する。他医療機関との連携による緊急入院の受け入れ体制確保やケアマネジャーとの連携等も行う。
36	在宅時医学総合管理料・特定施設入居時等総合管理料	常勤医師や在宅医療の調整担当者を配置し、在宅での療養を行っている患者であって通院が困難な者に対して、計画的な管理の下に月2回以上の定期的な訪問診療を行っている場合に算定される。
37	在宅がん医療総合診療	在宅療養支援診療所または在宅療養支援病院が、在宅での療養を行っている末期の悪性腫瘍の患者であって通院が困難な者に対して、計画的な医学管理の下に総合的な医療を提供すること。
38	かかりつけ医	身近な地域で患者の体調や病歴を把握し、診療行為だけでなく健康の相談や症状等により専門医の紹介を行う医師。
39	トリアージ	災害発生時等に多数の傷病者が同時に発生した場合に、医師や医薬品等が不足する中で多くの人命を救うために、傷病者の緊急度や重症度に応じて適切な処置や搬送を行うための治療優先順位を決定することをいう。

番号	用語	説明
40	基準病床数	医療法に基づき、病床の適正配置の促進と適切な入院医療の確保を目的に、病床整備の基準として病床の種類ごとに定める病床の数。人口・平均在院日数・流入患者数・病床利用率等からなる全国一律の算定式(資料編 43 ページ参照)により、都道府県が5年に1度改定する医療計画において二次保健医療圏ごとに算定する。 既存病床数が基準病床数を上回る二次保健医療圏では、病院の開設・増床等は原則行うことができない。
41	維持期	回復期の後に障害が残った場合など、引き続いてリハビリテーション等の医療や介護が必要とされる時期をいう。
42	(仮称)地域一般病棟	社団法人全日本病院協会を中心に纏められた概念で、リハビリテーション機能・ケアマネジメント機能・高齢者にふさわしい急性期医療・後方支援機能・ターミナル対応機能を持つ施設とされている。
43	紹介(率)・逆紹介(率)	紹介・逆紹介 病院と地域の診療所または病院同士がおこなう連携のこと。必要に応じ、患者は診療所等から専門医や医療設備の充実した病院に紹介され、高度な検査や治療を提供される。また、病状が落ち着いた患者は紹介元の診療所等で診療を継続するしくみ(逆紹介)。 紹介率・逆紹介率 地域医療支援病院紹介率 = (紹介患者の数 + 救急患者の数) ÷ 初診患者の数 × 100 地域医療支援病院逆紹介率 = 逆紹介患者の数 ÷ 初診患者の数 × 100
44	年齢調整死亡率	異なる集団間や年度毎などの死亡率を比較する際に、年齢構成の違いを補正して算出する死亡率。
45	糖尿病腎症	糖尿病の3大合併症の一つ。糖尿病で高血糖が続くと腎臓の血管が障害を受けて腎臓の大切な働きを低下させ、タンパク尿、むくみ、高血圧となり、さらに進むと腎症や腎不全となり人工透析が必要な状態になる。
46	地域連携パス(地域連携クリティカルパス)	患者の病気を治療していく上で必要な治療・検査やケアなどに関する、治療開始から終了までの全体的な治療計画で、地域の医療機関等で共有するもの。地域完結型の一貫した医療サービス提供(急性期病院から回復期病院を経て自宅に戻り、かかりつけ医にかかる等)を目的としている。
47	集学的治療	がんの治療に際し、手術、放射線療法、化学療法を組み合わせることで、より効果的な治療を行うことをいう。
48	摂食・えん下	食物を認識して、口に取り入れ、飲み込み、胃に至るまでの一連の過程を指す。

番号	用語	説明
49	誤嚥性肺炎	細菌が唾液や胃液と共に肺に流れ込んでおこる肺炎。高齢や脳の病気などの影響によりえん下機能の低下がある場合、うまく飲み込めず、喉頭蓋の動きが低下し、誤嚥した際の咳やむせといった動作も鈍くなり、気管への誤嚥を招くことによる。
50	災害拠点病院	災害時に多発する重篤救急患者の救命医療を行うための高度の診療機能、被災地からの重症傷病者の受入れ機能、傷病者等の受入れおよび搬出を行う広域搬送への対応機能、自己完結型の医療救護チームの派遣機能、地域の医療機関への応急用資器材の貸出し機能を有し、災害時の拠点となる病院。
51	化学療法	抗がん剤を用いて、がん細胞の分裂を抑え、またはがん細胞を破壊する治療法。
52	PET	Positron Emission Tomography の略。腫瘍の活動性や悪性度、転移・再発の有無、治療効果の判定などに有効な画像診断法。ポジトロン(陽電子)を放出する核種で標識した薬剤を静脈注射または吸入し、体内の分布を経時観察するもの。
53	リニアック	放射線療法に使われる機械のひとつ。リニア加速器、ライナックともいう。原子より小さい粒子(通常は電子)を直線軌道上で加速し、治療用の高エネルギーのX線や電子線を発生させる装置。体の外から体内の病巣部を照射して治療する。
54	放射線治療	X線やガンマ線、電子線などの電磁波をがん細胞へ照射することによって、がん細胞を死滅させる方法。さらに、近年では陽子や炭素の原子核を治療に用いることも可能となり、それぞれ「陽子線治療」、「重粒子線治療」とよばれている。
55	緩和ケアチーム	がん等の末期患者と家族を対象に、身体的、精神的、社会的側面などからサポートして苦痛を緩和し、人生の残された時間を人間として充実した生活が送れるように組織化された医師、看護師、薬剤師、栄養士、地域医療連携室などのスタッフのチーム。
56	東京都認定がん診療病院	都民に高度ながん医療を提供するため、国が指定するがん診療連携拠点病院と同等の高度な診療機能を有する病院を「東京都認定がん診療病院」として、都が独自に認定するもので、平成24年8月現在、10の認定がん診療病院がある。
57	t-PA	組織プラスミノゲン・アクチベーター(t-PA)を使用し、脳の細胞が死んでしまう前に血管を塞いでいる血栓を溶かし、血流を再開することで脳の働きを取り戻す血栓溶解療法のこと。発症後3時間以内の超急性期の脳梗塞に有効性が認められている。
58	CCU	Coronary Care Unit の略。冠状動脈疾患集中治療室。主に急性心筋梗塞等の冠状動脈疾患の急性危機状態の患者を収容し、厳重な監視モニターで持続的に管理する治療室。

番号	用語	説明
59	CCU ネットワーク	資料編参照
60	ESWL・レーザー	ESWL（Extracorporeal Shock Wave Lithotripter：体外衝撃波結石破砕装置）：腎臓結石や尿管結石に体外から衝撃波を当て、破砕する装置。 レーザー：内視鏡を尿管や腎まで挿入し、直接結石を確認しながら、レーザーを用いて破砕する。
61	がん診療連携拠点病院(都道府県がん診療連携拠点病院及び地域がん診療連携拠点病院)	全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう全国 397 か所の病院で指定されている。（平成 24 年 4 月現在） 拠点病院の役割 ・専門的ながん医療の提供（手術、放射線療法、化学療法を組み合わせた集中的治療、初期段階からの緩和ケアの実施） ・地域がん診療の連携協力体制の構築（研修・診療支援、患者受入、紹介） ・がん患者に対する相談支援及び情報提供 都道府県がん診療連携拠点病院にあつては、都道府県に 1 か所、地域がん診療連携拠点病院にあつては、二次保健医療圏（都道府県がん診療連携拠点病院が整備されている二次保健医療圏を除く。）に 1 か所整備するとされている。
62	SCU	Stroke Care Unit の略。脳卒中集中治療室。脳卒中診療に関する専門知識を有する各科の医師、看護スタッフ、放射線技師、リハビリテーションスタッフなどからなる脳卒中診療チームが専門病床で総合的な診療にあたり、発生早期から 24 時間体制で手厚い治療とリハビリテーションを計画的に行い、治療成績を向上させ、患者の機能予後の改善を目指す部門のこと。
63	回復期リハビリテーション	急性期を脱して回復期へ移行した患者において、日常生活動作を改善するため機能回復等を中心に在宅復帰と生活の向上を主たる目的として行われるリハビリテーションのこと。
64	維持期リハビリテーション	急性期および回復期のリハビリテーションに引き続いて、患者の体力や機能の維持もしくは改善、生活環境の整備、社会参加の促進、介護負担の軽減などに努め、主に患者の自立生活を支援することを目的としたリハビリテーションのこと。
65	心大血管疾患リハビリテーション	リハビリテーションの施設基準の一つで、急性発症した心血管疾患または心大血管疾患の手術後の患者、慢性心不全の患者などに対して有酸素運動や、筋力増強運動を主体として社会復帰への体力の回復と再発予防を目的とする。

番号	用語	説明
66	総合周産期母子医療センター	MFICU（母体・胎児集中治療管理室）病床を6床以上、NICU（新生児集中治療管理室）病床を9床以上有し、常時母体および新生児搬送受け入れ体制を有し合併症妊娠、胎児・新生児異常等母体または新生児におけるリスクの高い妊娠に対する医療、高度な新生児医療等の周産期医療を行うことが出来る医療機関。都道府県が指定する。
67	地域周産期母子医療センター	産科・小児科（新生児）を備え、周産期に係る比較的高度な医療行為を常時担う医療機関をいう。都道府県が認定する。
68	周産期連携病院	都が創設したもので、ハイリスクの妊産婦・新生児に対応する周産期母子医療センターとの連携のもと、ミドルリスクの妊産婦に対応する病院。
69	精神・身体合併症患者	精神疾患と身体疾患を併せ持つ患者。精神科患者の高齢化が進む中で、精神・身体合併症に対応する機能の確保が課題となっている。
70	セミオープンシステム	妊婦健診は近隣の通院が容易な診療所で、出産は設備の整った病院で行う方式。病院と診療所が妊婦の情報を共有し、機能に応じた役割分担を行うことで、病院の混雑緩和と産婦人科医師の負担軽減ならびに妊婦の通院負担の軽減を図ることができる。
71	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	要介護高齢者の在宅生活を支えるため、日中・夜間を通じて、訪問介護と訪問看護が密接に連携しながら、短時間の定期巡回型訪問と随時の対応を行うサービス。
72	複合型サービス	医療ニーズの高い要介護者への支援の充実を図るため、小規模多機能型居宅介護と訪問看護を組み合わせ、一つの事業所が看護と介護サービスを一体的に提供するもの。
73	メタボリックシンドローム	おなかのまわりの内臓に脂肪が蓄積した内臓脂肪型肥満は心筋梗塞や脳梗塞などの危険性を高める。内臓脂肪型肥満に加えて、高血糖、高血圧、脂質異常のうちいずれか2つ以上をあわせもった状態を、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）という。
74	特定健康診査	40歳から74歳の医療保険加入者を対象に糖尿病や高脂血症、高尿酸血症など生活習慣病の発症と重症化を予防することを目的として、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症）に着目した健康診査（特定健康診査）および保健指導（特定保健指導）のこと。
75	特定保健指導	特定健康診査の結果から、生活習慣病の発症リスクが高く、生活習慣の改善による生活習慣病の予防効果が多く期待できる者に対して行う保健指導のこと。リスクの程度に応じて、動機付け支援と積極的支援がある。